

令和7年度 第2回関市立図書館協議会 会議録

日時 令和8年3月25日（水曜日）午後1時30分～

場所 わかくさ・プラザ 学習情報館 2階ギャラリー

◆出席者

（図書館協議会委員）

三輪英二、波多野壽美、平川貴久、河合裕子、早川貞子、可児翔也、長屋沙織

以上7名

※欠席者 藤根隆、鈴木幸子

（事務局）

野田和江生涯学習課長、深川理代、三原麻梨絵

（図書館）

庄司龍彦館長、亀山並枝館長補佐

◆傍聴者 なし

1 開会

2 会長あいさつ

かなり暖かくなってきて、桜の開花も進んでいることと存じます。それまでは毎日寒い日が続いておりましたが、インフルエンザの流行も収束に向かっているようです。今年度第2回目となりますが、大変お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

ちょうど手元のチラシに、図書館の電子書籍サービス「Libby」の良いところについて記載がありますが、来る前にLibbyを開き、借りたらどうなるのかと確認したところ、「4週間待ち」と表示されておりました。Libbyを開くと、「予約」と「すぐに借りられる」の表示があり、私が良いと思った本は4週間待ちで、現在何人の方が閲覧しているかという情報も記載されていました。このLibbyは、当図書館の非常に優れたサービスです。電子図書館として、人口7万人から17万人の市町村の中で、電子書籍の利用率がどの程度であるかという調査があり、関市の図書館が賞を受賞いたしました。この点は素晴らしいと感じております。この取り組みの背景には当然、学校との連携があります。学校では、電子書籍をタブレットで閲覧する、あるいは個人でも利用できるといった取り組みが進んでおり、素晴らしいことだと考えています。

現在、電子化が急速に進んでいます。街の本屋さんに行っても、店員がおらず、自分で支払いを行う方式が増え、レストランではロボットが注文された料理を運んでくる、といった時代

になってきています。そのような時代になった一方で、やはり紙媒体は絶対に必要であると考えております。私自身も現在1冊図書館で本を借りておりますが、問題はいかに読書の機会を確保するかということです。様々な情報や趣味、活動が世の中に溢れている中で、本を読む時間をどれだけ確保できるか、これは個人の裁量によるところが大きいと思いますが、「読むことから学ぶ」「書物から学ぶ」という非常に重要な要素を失ってはならないと考えております。本日は今年度最後ということで、ご出席の委員の方々からご意見をいただきたく存じます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3 館長あいさつ

本日は皆様にお集まりいただき、図書館としても大変喜ばしく思っております。皆様にお配りしましたLibbyに関するチラシにもありますが、子供たちは先生以上にLibbyの操作に習熟しており、素早く本を借りていきます。そのような状況もあり、子供たちがどのような本を読み、どのような関心を持っているかを知ることは重要で、実際に足を運び、インタビューをしたことで見えてきたものがありました。現在、図書館としては紙の本もたくさんご利用いただき、市民の皆様の読書力や本に親しむ文化を高めたいという願いがあります。詳細についてはこの後の説明で述べさせていただきますが、図書館と利用者をつなぐのは、ご来場の皆様のご尽力のおかげであり、大変感謝しております。今後とも、本日いただいたご意見を活かしてまいりたいと存じますので、ぜひ遠慮なく皆様の生の声を聞ければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 議事

- ・三輪会長による議事進行

令和7年度の図書館運営状況及び令和8年度図書館事業計画について

- ・図書館長より資料に基づいて説明

5 質疑応答

【委員】 図書館を利用する中で、分室や分館は多くが早く閉館してしまい、なかなか本を返しに行くのが難しいという声を以前から聞いていました。返却ボックスが洞戸の方にはないので、もし設置できれば、もう少し返却を促せるのではないかと考えています。また、これは難しいことだとは重々承知していますが、例えば本館のように開館時間を週1回か2回で良いので、遅くまで開けていただけないでしょうか。中高生向けの本をどんなに揃えても、中高生が利用したい時間に閉館していることが多いので、その年代の子どもたちがなかなか足を運んでくれないということがありました。土日でも

部活動や習い事などで開館時間に利用できない子どもが少なくないのも、ふれあいセンターさんとの協力が必要になるかと思うのですが、そういった機会があれば、利用者の増加にも繋がるのではないかと考えています。

【館長】 閉館時間につきましては、勤務時間の関係もあり、今すぐここでの返答は難しいです。返却ボックスについては、施設の課題もありますが、何とかできないかと考えています。今後、生涯学習課と相談し、前向きに進めていければと思っています。

【委員】 図書館には本当に様々な人たちが座れる場所があり、私にとって、とてもちょうど良い人数で居心地が良いと感じています。以前は、学生さんが勉強している姿をたくさん見かけ、座る場所が少ないと感じることもありましたが、今は2階など様々な場所で調整されていて、シニアの方々が本当に気持ちよく、心地よい時間を過ごされているのが伝わってきます。森のはなれなど、図書館のイベントがたくさんあるということで、ぜひ行ってみたいと思う内容がたくさんありましたが、申込方法についての広報が少ないように感じます。広報誌を読んでいるのですが、そんなにたくさん載っているという感じはしません。この辺りは、どのように広報されているのでしょうか。

【事務局】 図書館のイベントや講座は、毎月の広報誌で図書館のコーナーが後ろのページにございまして、そちらに掲載しております。また、生涯学習課が直接実施させていただくような読書推進のライブラリーコンサートなどは、その広報誌とは異なる場所でお知らせをさせていただいております。

【委員】 イベントについては、図書館のホームページなどにも掲載されていますか。紙ベースの広報は、図書館の入り口などにチラシが置いてありますが、それを見て電話での申し込みも受け付けていただけますか。また、各地区のふれあいセンターなどにもチラシが置いてあると、手に取っていただけるのではないのでしょうか。

【館長】 ホームページにも掲載しております。ふれあいセンターにも巡回の際イベントのチラシを置かせていただいています。ただ、配布数が少なくて、手に入らなくなってしまったのかもしれませんが、もう少し多く配布してもらおうよう、担当者をお願いします。

【委員】 様々な団体との連携で、色々な活動ができているのだと感銘を受けました。これほどの団体との連携につながるきっかけは、どのような形で各団体と築かれたのかが気になりました。図書館の方から声をかけたのか、何か向こうからアプローチがあったの

でしょうか。

【館長】ほとんどのケースでこちらから働きかけるというよりは、「何か一緒にできることはないでしょうか」とご相談をいただくことが多いです。例えば、環境課のイベントでも、図書館で何かできませんかというご相談をいただくことがありました。こちらからお願いするというよりも、向こうからお話をいただくことが多いです。また、入口のところに展示スペースがあるので、「わかくさ・プラザで何かイベントがある時に、そこで展示できないか」といった相談も受けます。「何か繋がりはないか」という目でやっていくことが大切だと思います。

【委員】図書館のボランティアについては常時募集している形ですか？今、何人くらい活動されていますか？

【館長】年度の初めに、1年間でボランティアさんがどのようなことを行ったださるかを紹介する展示を行うのですが、その際に「ボランティア募集中」という告知をして、4月に希望者の方に一度申し込んでいただく形です。しかし、その後も随時希望があれば対応しております。各ボランティアに本当にたくさん、それぞれの年代の方がいらっしやいます。

【委員】 私たちも以前から、ボランティア活動をしています。とても良い関係で居心地よく活動をしています。土曜日の2時からおはなし会に来ていますが、初めて、お客さんがゼロの日がありました。しかしこの頃は、お父さんの参加が非常に増えまして、家族みんなでの参加など様々な形があります。本当に読み聞かせに関心を持ってくださるご家族の方々がいらっしやり、私はとても喜んでボランティアとして迎えています。ありがとうございます。40年間、活動させていただいております。

【館長】参加者がゼロの日があったということで、図書館の中で話し合いをしまして、せっかくの機会なので、参加していただける方を増やすためにもスタンプラリーのようなものを作って、おはなし会に来てくれたらスタンプを押し、スタンプが集まったらちょっとした景品を渡すなど、お楽しみを作ってみたらどうか、という案が出て、現在準備中です。何とか、それでリピーターを増やしていきたいということを考えています。

【委員】以前、読書について学校のアンケートがあったのですが、子どもさんと保護者の双方に同じ内容でアンケートが取っており、紙媒体か電子書籍であるかもしれませんが、

本をよく読んでいると感じている子が7、8割くらいいて、保護者もよく読んでいると答えている方がほとんどです。どちらも多数派で、驚きました。かなり学校も積極的に本を取り入れてくださっているし、読書を身近に感じてくれている方が多いことに嬉しくなりました。今お話を聞いていて、かなり様々な地域と繋がって色々なことをしていらっしゃる中で、自分自身が日頃もっと声かけをしていくと良いのかなと思いました。例えば、「図書館でおはなし会をやっているから行ってみたいらどう？」とか、イベントの紹介とか、「お母さんたち、こんなことをやっていますよ」という情報を、自分ももっとたくさん発信していく、繋いでいけるようなお手伝いをすることも、私たちの役割になっていくと良いのかな、ということをおもいました。

【会長】社会情勢の変化の中で、それぞれが単独で活動する時代ではないと私自身も感じています。一つのイベントを実施する際にも、多角的な情報提供が求められています。その中で、やはり様々な団体と連携しなければならない、そのような時代だと認識しています。先ほど、図書館を利用する時間帯について話が出ましたが、例えば昼間なら高校生がいなくて年配の方が利用しやすくなる、夕方からは小学生や高校生、さらに遅くなると大学生や仕事帰りの方が利用するなど、時間帯によって利用層を分ける工夫も有効でしょう。しかし、働き方改革の問題もあるため、一朝一夕にはいかないかもしれません。いずれにしても、様々な連携が、活動の成功に結びつくのだと感じました。それでは、皆様から貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

6 事務局連絡事項

来年度、学習情報館全体が工事のため閉館する期間が現在予定されております。消防設備を更新するため、私たち事務職員は業務を行えますが、一般の来館者の方が入ることができない期間が生じます。現在の予定では、10月から翌年1月までの4ヶ月間を予定しております。ただ、図書館だけはもう少し早めに再開できないか検討を重ね、今のところ図書館は10月と11月の2ヶ月間を休館する予定です。その他の貸館部分、例えば多目的ホールや会議室などは、1月までの4ヶ月間閉館する予定です。まだ確定ではない部分もありますが、現状ではそのような予定で来年度の図書館運営を行うこととなります。閉館期間中も、予約本の受け取りや貸し出しは実施する予定です。ただし、現在の施設が使えないため、福社会館の1階部分に間借りさせていただく形で、出張所のようなスペースを設け、そこで予約本の受け取りなどができるように調整を進めております。来年度1回目の会議で、さらに詳しくお話できるかと思いますが、現時点での予定は以上です。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

7 閉会（生涯学習課長あいさつ）

本日、皆様からたくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。私ども生涯学習課や図書館の管理運営を行う指定管理者の岐阜済美学院という「運営側」だけでなく、「利用者さん側」という貴重なご意見をいただけたことは、私たちでは見えない部分も多いため、大変参考にさせていただきます。やはり利用者さんの目線が非常に大切だと改めて感じました。まもなく、高校や中学は春休みに入り、小学校も春休みに入ります。子どもたちがたくさん訪れる図書館、そして様々な年代の方が訪れる図書館を目指し、今後も図書館運営に携わっていきたいと考えております。皆様方には来年度も1年間、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました